

水を使うということ

横浜市立大鳥中学校

三年 黒澤 心

「蛇口をひねっても水が出ない。」千葉県の小向ダムで貯水量が低下し、四八七〇戸で断水。昨年十二月、そんなニュースを見た。断水になると、手が洗えなくなり、トイレも使用できなくなる。もちろんお風呂には入れない。私はそれを見て、私たちの生活に水は必要不可欠な存在だということを、改めて痛感した。同時に、人は一日にどのくらいの水を使っているのか気になり、調べることになった。

すると驚いたことに、日本の生活用水の一人一日の平均使用量は二八九リットルだった。その中でも、飲料水としてお腹の中に入るのは、たったの二パーセントだけなのだ。こんなにも水を使っているのに、二パーセントしか飲料水になっていない。では、一体何に水を使って

いるのだろうか。一番多いのはトイレで、二十八パーセント。次にお風呂で二十四パーセントである。お風呂よりトイレが多いのは意外かもしれないが、トイレ一回につき十リットルもの水を使うのだから当然だろう。

しかし、人間らしい暮らしをするために一日に最低限必要な水の量は、僅か五十リットルだけだという。にもかかわらず、一日の水の平均使用量は、先程も述べたように二八九リットルと、約五倍になる。いかに私たちが水を大量に使っているかがわかる。

では、どうやって水は私たちの元へやってくるのだろうか。山や森に降ってきた雨が川に流れ、ダムに蓄えられる。そこから浄水場へ行き、薬を使って土や泥を除く。そして活性炭という炭に有害物質などを吸着させる方法やオゾン生菌ろ過、紫外線などを使ってさらに綺麗にする。最後に消毒をし、ようやく安全な水になる。その水は、ポンプで送水されて蛇口まで送られる。このように、たくさん手間がかかるのだ。

殺菌消毒をするにも、ポンプで水を送るにも、エネルギーを必要とする。エネルギーを使いすぎると、地球温暖化の原因である二酸化炭素が大量に発生してしまう。

つまり、水道水を使えば使うほど、二酸化炭素の排出量が増え、地球温暖化が進んでしまうのだ。

それを防ぐために今、私たちには何ができるのだろうか。それは、水をできるだけ大切に使うことだ。例えば、歯磨きをするときに蛇口の水を三十秒間出しっぱなしで口をすすいだ場合の水は六リットル。しかし、コップに水を入れて使った場合は三〇〇ミリリットルと、水の量をおさえることができる。他にも、洗濯は新しい水を使うのではなくお風呂の残りの水を使えば半分の量で済む。考えてみると、今日からでもできることはある。

私たちは、水が無いと生きていくことができない。しかし、水を使いすぎると過ぎにくい未来になってしまふ。もつと、水を使うことの重みを知る必要がある。

「水を使う」ということは、「水を消費する」ということだけではなく、地球温暖化につながっているということとを認識して、過ぎないと思う。また、水を大切にしなければならぬ理由を理解し、意識して水を大切に使う人が増えたらいいなと願う。